

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401574		
法人名	株式会社 メディウェルジャパン		
事業所名	グループホーム・フレンドリィ		
所在地	〒063-0870 札幌市西区八軒10条東3丁目1番20号		
自己評価作成日	平成22年10月13日	評価結果市町村受理日	平成23年2月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401574&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目社会福祉総合センター(かでる2・7) 4F
訪問調査日	平成22年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①美味しい食事の提供。味だけではなく、多彩な材料を使用し、栄養価や個々の利用者の嚥下・咀嚼機能にも配慮して提供している。行事食や利用者の嗜好を取り入れたり、ホームの菜園で育てた野菜や果物を使用し、見て楽しみ、季節感を味わって楽しめるように取り組んでいる。
②地域との交流、町内会の行事や催し物への参加や散歩の際の近所の住民との挨拶や交流、ホームの行事に町内会や子ども会の皆さんが来訪し、利用者と交流を持っている。また、火災や災害の発生時は地元町内会及び隣接する町内会との協力体制をとっており、緊急連絡網に入っており、避難訓練への参加、火災災害発生時の避難誘導の訓練を行なっている。
③アットホームな雰囲気。職員が個々の利用者の心身の状況を細かく観察し、その都度の対応をしながら、ごく自然な形で利用者と寄り添い、共に生活している。
④火災発生時に備え、自動火災通報装置を設置している。又平成22年度中にスプリンクラーの設置を予定している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、とても家庭的な雰囲気のなかで、利用者・職員の笑顔や笑い声を絶えず、「安心とやすらぎのある暮らし！」を実践されている。管理者や職員は、常に、向上心を持ってケアや事業所運営に取り組まれている。特に、楽しくて美味しい食事作り、注意深い観察や職員同士の意見交換とアイデアに基づくケアプランの充実、利用者の避難誘導策の工夫や訓練など、あらゆる事にチームワークを発揮して前向きに実践に繋げている。開設当初から地域との連携に取り組む、近所付き合いや子ども会・町内会との交流、地域貢献など地域での暮らしと出会いを大切にしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
			2. 利用者の2/3くらい		
			3. 利用者の1/3くらい		
			4. ほとんど掴んでいない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
			2. 数日に1回程度ある		
			3. たまにある		
			4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの基本理念を見やすいところに掲示してある。又、朝のミーティング時に都度確認し、意識を高めている。	4項目の事業所理念を掲げ、開設当初から地域との連携を意識した「常に地域と対話し、相互に響きあいの中で、福祉に貢献します。」に取り組み、共通認識の下、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	平成22年は4月の町内会総会に参加して町内の方々との良好な関係が築かれたと考えている。5月の清掃活動、花の苗植えには計画作成担当者が参加。7月のふくまちのお楽しみ会への参加は体調を崩された方がいて参加を見送ったが、昨年はクリスマス会などの行事では町内会や子ども会との交流を行っており、今年も同様に交流を予定している。	季節毎のホーム行事には子供会や地域住民をお招きしたり、散歩時等、近所との交流を深めている。町内会の学習会では「認知症やグループホームについて」のテーマで講演をして相談を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会及び地域包括支援センター等を通じてGHの存在をアピールしている。当ホームでも認知症状を中心に介護保険全般に渡る各種相談アドバイスの実施を図っている。また、AED設置施設の表示をして、近所で緊急事態が発生した場合にAEDや酸素ボンベ等の蘇生機器を利用していただけの体制をとっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で話した町内会活動への参加。町内の清掃活動・花の苗植えなどの活動だけでなく、「地域に顔の見える」グループホームとなるよう、各種行事に参加したり、訪れていただけるような行事を企画していく。	会議は隔月で開催し、構成メンバーを固定せず、全家族に案内を送付して参加を呼びかけている。毎回、防火対策についての議論を深め、外部評価結果の意見交換等、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のグループホーム管理者会議に定期的に出席し、市の担当者との情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	管理者は、市・区のグループホーム管理者会議に参加し、勉強会や利用者同伴の食事会、職員研修等で情報交換をしている。市・区の担当者とは、主に運営者が相談や報告をして連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行っていない。また、身体拘束を行わない介護上の工夫を管理者・スタッフで相談しながら行っている。	管理者や職員は、身体拘束や虐待に関する外部研修を受講し、受講後の伝達講習により、話し合いや確認をしながら職員間の共通認識を図っている。玄関は、利用者が自由に出入り出来るよう施錠せず、職員の見守りの工夫で安全に配慮された自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に	管理者と職員間で常に話し合い虐待が無い、か、又そういう事につながり無いかを確認し合っている。日々のミーティングの時に個々に対する対応、対話等について話し合い予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が2名、地域権利擁護事業を利用されている方が1名いる。極力必要な方には役所と協力して話し合い、活用できる方向で進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族と面談して運営者・管理者による説明を解りやすく行い、契約を結んでいる。十分な理解が得られるよう図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各利用者の意見・不満・苦情を管理者・職員が聞いて対応している。また、H22年6月に家族アンケートを実施し、自己評価に反映させ、評価の結果を運営推進委員会に報告及びGHだよりに掲載している。	事業所では、毎年、家族アンケートや家族懇親会を実施し、家族の意見・要望・満足度などを把握してサービス向上に活かしている。又、運営推進会議でも、参加家族との意見交換をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議や業務打ち合わせの時に希望・意見・提案等。その都度検討・反映、対応している。GH内で解決できる事は極力GH内ですくい上げて実践及び解決を図っている。本社決裁が必要な案件は本社に上申、相談しつつ対処・対応に努力している。	管理者や職員は、常に向上心を持って取り組んでおり、意見・要望は積極的に伝え、より良いケアや事業所運営に活かしている。避難用階段で様々な避難誘導策を工夫し、休憩室には電話を設置した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定例会議の他、入居者や職員の様子を把握し、職員に直接話すこと。管理者の日常業務のうち、職員に任せて支障のないものを役割分担してもらい、施設運営について理解を促したり、やりがいを持たせる取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会のスタッフ研修や札幌市社協の施設職員向け研修にスタッフを参加させている。今後も個々のスタッフに合った研修に参加させたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区内の管理者会議・連絡協議会のネットワークの各種研修会に参加。各種事例検討会、ケアプラン学習会を含め各種研修会に積極的に参加。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	運営者・管理者が相談時に家族・本人から話を聞いてはいるが、本人だけとの話し合いは利用開始後が多い。自然な会話の中で様々な手法を持ち得て巧みに会話しつつ色々な状況を知る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お互いに都合のつく限り話を聞いて不安や要望を理解するようにしている。その際には当ホームが取り組んでいる姿勢等の詳細を説明し、いかに安全で安心かを理解していただく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との話し合いで、職員間で検討会を開き、当ホームで何をどの程度できるかを模索し、他のサービス利用を含めて検討している。本人・家族の同意を得ながら通院の対応や場合によっては入院の促しを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の力に応じて日常的な活動と一緒にしたり、ゲーム・行事を通じて本人のリズムに合わせて共に協力しあっている。掃除・調理・洗濯物干しのお手伝い等を自発的に行って下さる方がいる。その他の方も強制では無く促して参加の方向に持って行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個々にお便りや電話で状況を連絡して一緒に支えていくように対応している。家族会と連携を取り行事に参加してもらったり一緒に行動しながら関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に近い場合は可能。家族・親戚・知人の訪問の受け入れをしている。利用者が老人クラブや友人宅、行きつけの美容室・商店などへ行く際には支援している。	利用者の希望で、昔暮らしていた家を訪ね、庭の木を観賞し、草むしりをしたり、近所の友人を訪ねて支援をしている。また、趣味の継続支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	下膳等の手助けをお願いしたり、散歩・ゲーム・リハビリ時にはお互いに関わり合いを持っている。活性化の為に計算トレーニング等の時には得意な利用者が、他の利用者の嫌がらない程度に手伝ったりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後への地域とのつながり関係を考える時、御縁を頂いた深さを有難く思いそのつながりを大切に継続していきたいと考える。今年入院療養を経て亡くなられた入居者宅を弔問。利用者の奥様が併設の通所介護を利用されており、ご家族との関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの状態や思い・意向を把握して反映するように支援している。家族と定期的にお便りを出したり、連絡を取り合って検討している。	アセスメント用紙は、利用者の思いを受け止めながら、日常生活動作・認知状態・社会生活への適応状態など利用者の全体像を把握し、3ヶ月毎に更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの情報だけでは忘れている事も多いので、時間を掛けて本人より集めた情報も大事にしている。本人・家族には、馴染みの物で居室に置ける物の持参を促している。昔の写真を持ってきていただくなどして、本人に話を聞くなどしている利用者もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェック及び夜間の排泄状況等も含め克明に記録し、毎日の打ち合わせの中で情報を共有し合い、適切な支援の指針にしている。利用者自身で出来そうな事は、待つ姿勢を大切に見守っている。出来なかった事や出来ない事は、さり気なく支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者・家族・利用者本人との話し合いを持ち意向に沿うように努力している。家族の集まりや、介護員・医療面との意見を総合し、介護計画に反映させ、より良いケアにつなげている。定期的に見直しを行っているほか、変化が生じた時、その状態に即した新たな計画で支援するようにしている。介護計画の細やかな見直しとそれに沿った介護のあり方に取り組んでいる。	介護計画は、毎月、利用者の状況に沿っているか意見交換や確認をしている。モニタリング・評価総括は、3ヶ月毎に実施して暫定計画を立案し、家族・職員の了解を得て見直し計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細部を個別に記入し共有してケアに生かしている。介護記録の実際を詳細に把握し合い共通したケアに反映させる事が最も大切なことだと考えて取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所リハビリの併用、福祉用具事業所、介護移送サービスによる通院介助その他移送サービス、訪問看護ステーション等の提供を受けている。医師の指示を中心に適切柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・ボランティア・消防・警察等との協力関係を作り支援している。状況に応じて各種関係機関と密接な協力を得て現在を迎えている状況に感謝している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携体制について説明、了承の上で当GHの看護職との密接な連携の下に、協力医療機関の定期健康管理や、個々の利用者の疾患に合わせた医療機関の受診を支援している。内科・循環器科・外科・整形外科は1-2/月、歯科は1/週、耳鼻科、眼科、脳神経外科等利用者の疾患に合わせて適宜受診できる体制をとる。また、訪問看護ステーションの支援を受けている。	入居後に協力医療病院へ変更したり、また、以前からのかかりつけ医を継続されている方もおり、利用者の希望や身体状況に合わせて、より適切な医療機関を選択され、職員が通院支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHの看護職と、訪問看護ステーションと密接に連携を取り適宜相談指示を受け、協力医療機関との対応も円滑である。現在他訪問看護ステーションの看護師は、1/週だが、GHの看護職による管理把握がきめ細かい内容のため、医師も高く評価している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医と緻密な連携を取り現病に即した内容に伴い、必要に応じ話し合っている。利用者がグループホームに戻り、従来通りの生活に戻れる様支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	疾病に伴い、医師が入院の必要性を認めた時(感染症も含めて)。入院が長期に至ると判断された場合。一般状態からGHでの生活が困難になった場合。症状が末期でもGHでの生活が可能であるなら、家族と連絡を密にして状況を共有しながら、スタッフ・医療機関や看護師との連携にて出来る限り本人や家族の意向に沿える様最善を尽くしている。なお、「終末期の看取りと介護に関する同意書」を順次各利用者家族と締結している。	入居時に「重度化した場合の対応指針」を説明し同意を頂いている。重度化した場合は、関係者と段階的に方針を確認し、出来る限りの支援に取り組んでいる。終末期に関する指針書も用意している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリ・ハット報告書や事故報告書を記入し再発予防の為、定例会議時に話し合っている。緊急時のマニュアルを全スタッフが確認し理解している。また、AEDや酸素ボンベ等の応急の蘇生処置の機器を整備している。看護師である管理者より、その都度指導・対応方法の指示を受けている。また、AEDの取り扱いについてはメーカーの指導によりスタッフが訓練を受け、さらに定例会議で使用方法を再確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	運営者・管理者・職員・利用者・地域住民による避難訓練の定期実施。火災発生時の緊急通報装置を設置し、職員及び近隣住民が避難誘導に駆け付ける体制をとっている。地元町内会及び隣接する町内会と協力体制をとっている。また、定例会議等により防火及び避難方法について職員間で話し合っている。運営推進会議等においても常に地域の協力をお願いしている。	消防署協力の下で、夜間を想定した避難訓練を4月と9月に実施している。緊急通報装置を使用し、地域住民の協力を得て、2階から1階への避難誘導を繰り返し訓練し、課題の改善に取り組んでいる。	職員は、日頃から2階から1階への、より安全で能率的な避難方法を工夫しているが、更に、繰り返しの訓練の積み重ねと、地震などの様々な災害や季節を想定した訓練への取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、本人が出来る能力を伸ばすように働きかけを工夫している。本人が自分で出来るよう見守りをしたり、働きかけを工夫している。職員は自分の立場に置き換え、言葉遣いや対応を考えている。記録など個人情報にも注意して取り扱う。	職員は、利用者の気持ちを一番に考え、待つ姿勢を大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの希望や、伝えたい言葉を受け止め、1対1でスタッフと話す機会を作り、何を伝えたいのかを会話の中から聞き取り理解し、その都度納得して頂きつつその人に合わせた言葉掛けや生活を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の能力に応じて選択の幅を考え、答えを急がせず待つ姿勢を大切にしている。個々のペースの生活パターンを重視しつつ、さり気ない介助、本人の返答能力に応じた質問法、本人の思っている「現実」を否定しない穏やかで優しい行動で信頼関係を作りながら自己決定を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ブライド重視した個々のおしゃれ心を尊重。その人成りの服装を楽しめるよう支援している。2ヶ月に1度出張美容室に来てもらい、希望者にはカット・カラー・お化粧品等を支援。行きつけの理美容室への外出の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所仕事は、利用者が希望したときや体調に合わせて一緒に行うほか、もやしの根とりなどを協働で行っている。スタッフも同じテーブルで同じ物を食べてその人に合わせた食事の支援をしている。毎回おかずの中身を利用者に説明している。好みを把握し季節感や昔懐かしい物等を採り入れた献立や食材選び、食欲を高める盛り付けの工夫、働きかけ等で楽しく食事ができるよう配慮している。又9月に敬老会を兼ねた家族会で利用者、家族が食事会で外食を楽しんでいる。	利用者への嗜好調査の聞き取りアンケートを年2回実施して、献立や調理、味付けの参考にしている。利用者は、果物剥きや、買い物にも散歩がてら同行している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲む時間や量等、又は食事の時・おやつ時にあるいは夜間にも摂取出来るよう種々工夫している。食事量が少ない時はとっていただいている。状態に応じて医師の指示により栄養剤を使用したり、家族の要望でサプリメントを使用することもある。水分についてはスポーツドリンクや甘味をつけるなどしてのみやすくしている。一日の食事量・水分摂取量や体調を一人ひとり出して、全員で毎日記録につけて検討して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態や力に応じて毎食後口腔ケアの支援や、義歯の洗浄管理を支援している。必要時には家族に連絡し訪問歯科の治療を受けている。又スタッフが歯科衛生士より口腔ケアの指導を受け利用者の口腔ケアに生かしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレを見守りし、排便・排尿のチェックを行い、個人に合った下着の使用、自発的な動作を察知した自立支援を行い、必要時は声かけ誘導している。個々のプライバシーを守りつつ、さりげない支援や見守りで体調確認して気持ちよい排泄を支援している。	夜間にリハビリパンツ使用でも、日中は布パンツに替えてトイレ誘導をしている。場面毎の状況を詳細に記録し、職員の共通認識の下で、自立に向けた統一の支援に取り組み、自立された方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日一人ひとりの水分摂取量、排泄の状態を把握し全スタッフで共有し合い、コントロールに支援している。体操・散歩などの運動や水分摂取と共に繊維質の食物・野菜を摂取できるよう日々努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り本人の希望に沿った形で入浴を促し、自分で出来るところは行って頂き出来ないところのみ支援にて行っている。スタッフは入浴中の羞恥心を自分自身に置き換えてプライバシーに配慮している。	入浴日は、週4回設定している。利用者は、週2～3回を目処に、午後の時間帯に入浴している。又、滑らずに安全に寛いで入浴できるよう、手すりにも滑り止めを使用する等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握。夜眠れない方の一日の生活を通じた安眠策に努め、緊張・疲労に応じた心身休息を支援している。日中の散歩等で生活のリズムを整え、夜間には身体を休めて頂けるように努め、不眠の有る場合は、体調を確認しながら病院よりの処方薬を状況に合わせて内服して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの使用している薬の内容を管理者である看護職が把握して、全スタッフに理解しやすく工夫し、毎日確認している。毎日のミーティングでスタッフより服薬の支援や症状の変化の報告を受け記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの性格や状況に合わせて、台所仕事・掃除・卓球・散歩・計算問題・絵・カラオケ等を体調に合わせて楽しんで頂ける場を設けている。自立支援を図る為、出来る事は見守り主体で教えてもらったりしながら一緒に行う。月に1回は行事を行い楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中の施設は行わず、家族と情報を交換して、行きたいところへ外出できるよう配慮、外出し易い環境作りを常に模索している。好天日や体調に応じ買い物・散歩、又、畑の花・野菜の成長等を楽しみに外へ誘ったりしている。	天気の良い日は、毎日、事業所周辺の散歩をして、近所のお庭を拝見させていただいている。又、事業所の野菜畑の水撒きをしたり、ベンチに座って音楽を聴いたり歌ったりして、楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人ひとりの希望に応じて自己管理を行ったり、希望に沿って管理を行い必要に応じて払い出しを行っている。管理するのが不十分な方には、本人が希望する甘味嗜好物や飲み物等を代わりに購入、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に利用できるようにプライバシーに配慮し、支援を行っている。公衆電話を居間から見えない位置に設置している。又、手紙の支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は居間は白色、廊下はオレンジ色と使い分けている。スタッフはスリッパを履かず、音を立てないようにしている。不快感の有る音(特に高め)は会話の中でも発しないようスタッフ全員で心がけている。又、1階、2階の廊下には行事の写真を掲示したり、季節の飾りつけをしている。玄関フロアーをもう少し工夫したいと考えている。	居間は、とても家庭的な雰囲気、寛げる空間となっている。ソファは、L字型で長く、利用者同士が談笑できるように配置されている。玄関と居間の間の壁にガラス窓を設置し、居間や台所から玄関の様子が伺えるように工夫され、利用者の安全に配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを置き、入居者同士で過ごせる空間が有る。ソファ以外の椅子にも自由に座り、入居者同士やスタッフとの会話を楽しんだり、一人で過ごしたい時には玄関の喫煙所の椅子にて一人で過ごせる場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、使い慣れたタンス等の生活用品をしようとしており、安心で居心地の良い空間となっている。広目のクローゼットが有り洋服その他が整理整頓しやすくなっている。本人の使い易い配慮や、身体機能に合わせた配慮を混乱のないように工夫している。	居室は、8部屋が2階にあり、利用者はエレベーターを利用して1階と2階を行き来している。居室内は、窓が広くて明るい。又、広くて使いやすいクローゼットが設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自の居室・トイレ・洗面所を間違えないよう目印や名前が表示している。入居者が使用しているものなどの位置は変えず、混乱を招くような作りにはなっていない。混乱が見られた環境に対しては、補修したり変化に対応している。		